

| | | | | |
|--|-------|-----|----|----|
| 広島で平和を考える Education of Peace in Hiroshima | 河上 暁弘 | 2年 | 後期 | 長東 |
| | | 2単位 | 選択 | 講義 |

1. 授業の目的(ねらい)

平和とは何でしょうか？それは戦争がないことだけではありません。近年「社会は甘くない」「お前など役に立たない」「社会に役に立つ人間になれ」などと「強者の論理」で切り捨てられ、生きていることがつらいと感じられる事例が山ほどあります。実はこれら全て「平和」に関する問題です。本講義は、広島から現代の世界と日本において平和の理念と現実を深く考え、人間理解に基づく豊かな人間性と社会性を発揮し、平和を実現するための課題を多角的な視点から探るものです。子ども学科DP(1)に関連。毎回予習30分、復習1時間を基本とします。

2. 授業計画

| 回 | 授業のテーマ | 講義内容 | 授業目標 | 教材 |
|----|-------------------------------|--|---|-----------------|
| 1 | 「平和」とは何か | 平和とは何か。「構造的暴力」(飢餓・貧困・差別・抑圧・搾取等)へ視点を向ける。受講者の関心を聴くので要準備。 | そもそも大学での学ぶことの意味・方法、さらに平和という言葉の意味等を考える | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 2 | 現代はいかなる時代か―「核時代」「地球時代」としての現代 | 広島・長崎への原爆投下の世界史的意味(核時代の世界史的意味)と「地球時代」としての現代の課題 | 現代はいかなる時代かを考える。核時代、地球時代として描かれる現代の特徴を考える | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 3 | 広島の現代史1「軍都広島」と原爆投下 | 戦前・戦中の広島「軍都」としての側面(大本営、大久野島毒ガス製造等)と原爆投下の実情について、 | 近現代における「広島」の位置(加害と被害)を見つめなおす | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 4 | 広島現代史2 ヒバクシャと核兵器廃絶 | 「ヒバクシャ」が戦後の核廃絶運動・平和運動において果たしてきた役割について | 「原爆都市」が「平和都市」と見なされるに至る歴史的位相を見つめなおす | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 5 | 世界と日本の平和思想 | 近現代の平和思想を考える | 近現代の平和思想の特徴を学ぶ | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 6 | 戦後日本の平和理念1「平和憲法の誕生」と「平和国家」 | 日本国憲法成立の歴史的背景とその過程について | 日本国憲法の平和主義について歴史的減点から考える | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 7 | 戦後日本の平和理念2 日本国憲法前文・9条の平和主義の理念 | 日本国憲法の平和主義(前文・9条)の理念とは何かグループディスカッション | 日本国憲法の平和主義の理念について人権・民主主義・立憲主義の視座から考える | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 8 | 平和と「現実主義」 | 軍事的防衛論・国家安全保障論の「現実性」についての分析 | 安全保障論議の中で主張される「現実主義」とは何かについて改めて考える | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 9 | 平和と教育1 学習権と教育への権利 | 人権としての教育(学習権と教育への権利)について | 人権の視座から教育を考える | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 10 | 平和と教育2 国家と教育 | 戦前・戦後の教育理念、国家と教育の関係 | 国家と教育の関係、教育の自由と権利について考える | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 11 | 戦後日本の平和の「構造」―「豊かさ」の構造と陥穽 | 戦後日本の「平和」とは何であったか その構造と陥穽を探る | 戦後日本の「平和」の特徴とそれをもたらした「構造」について考える | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 12 | 沖縄の戦後史 | 戦後沖縄における米軍基地形成史 | 沖縄の戦後史を通じて日本の平和の実態について考える | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 13 | 日米安保体制と沖縄 | 戦後沖縄と日米地位協定について | 沖縄の視座から日米安保体制を考える | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 14 | 冷戦後の世界と日本―新自由主義と軍事化 | 新自由主義と「グローバル競争国家」・軍事化の構造と背景 | 冷戦後の世界の構造転換を新自由主義・軍事化の2つの視点から分析する | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 15 | 平和への権利 学修の振り返り | 残された平和の論点―人権としての平和 これまでの学びを振り返る | 「平和への権利」とは何かを考える | 配布プリント(レジュメ・資料) |
| 16 | 試験 | 試験(筆記)。ただし、ゼミ形式の場合は16回目を受講者の総合討論の回とする | 試験または討論 | なし |

| 3. 最終到達目標 | 4. 評価方法 | 5. 学修法(予習・復習等) |
|---|---|--|
| 各自様々な論点をあわせるべき政治や社会のあり方、現実政治の置かれた状況等について、多様な視点から考え、そして、それらに関する自らの学問的見解を、論理的・説得的に表現・説明できるようになることが到達目標です。 | 1. 授業参加の態度(コメント用紙・期末レポート) 20% 講義終了後のコメント用紙および期末レポートを提出してもらいます。 2. 試験(参照なし) 80% 基本的な内容の説明 | 講義でとり上げたポイントをよく思い出しながら、講義教材(レジュメ・資料)を必ずもう一度よく読みこんでください(1時間)。さらにレジュメ末尾にある「参考文献」を読み、応用的な学習を常に心がけてください。 |

6. 教科書・参考図書等

A. 講義教材 レジュメその他の資料(紙媒体)を講義時に配布します。その他、参考となる教材や資料を指定・示すこともあります。
B. 参考図書 水島朝穂『ヒロシマと憲法』第4版、法律文化社、2003年、河上暁弘『平和と市民自治の憲法理論』敬文堂、2012年

7. その他(履修の要件等)

初回の説明が最重要なので初回から出席してください。受講者が少数の場合はゼミ形式で授業を行います。その場合は、発言・討論・期末レポート等で総合的に評価します(上記「4. 評価方法」)。ホットなテーマをとりあげたいので、各回の講義内容を変更する場合があります。

8. 学修成果との関連(短大のみ)

| 知識・理解 | 技能 | 態度・志向性 | 総合的学習・思考力 |
|-------|----|--------|-----------|
| | | | |